

令和元年度

事業所名： グループホーム つどい

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390600203		
法人名	有限会社つどい		
事業所名	グループホーム つどい		
所在地	〒024-0034 北上市諏訪町1丁目3番17号		
自己評価作成日	令和元年9月27日	評価結果市町村受理日	令和元年12月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

アットホームな環境下で、開設から6年目を迎えました。開設当初からの利用者様が徐々に入れ替わっており、現在は、新たな関係づくりの模索中でもあります。利用者様方は、入居歴の長い利用者様が、新しく入居されてきた利用者様に対して、優しく思いやりをもってコミュニケーションをとって下さるおかげで、施設環境に慣れるのが早いようです。利用者様一人一人の個性にあった対応、週3回の入浴での清潔保持、訪問診療・看護と連携しての体調管理がご家族様からもご好評を頂いております。また、事業所としては、個々の成長を目指してもらいたいという願いから、資格取得、多岐にわたった研修会への参加に力を入れています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanitrue&amp;JiyosyoCd=0390600203-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanitrue&amp;JiyosyoCd=0390600203-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、市の中心市街地にあり、あたたかな民家風の建物である。系列のデイサービス事業所が、道路を挟んだ向かいにあり、合同防災訓練の実施や利用者同士の交流が図られている。職員は、終末期の対応に取り組んでおり、尊厳を持って看取りを実施し、看取り後は、医師や訪問看護師等関係者を交えてケアカンファレンスを行なっている。身体拘束については、言葉や表情、動作等による行動抑制について研修を重ね、ケアの向上を目指し努力している。利用者同士のコミュニケーションが良く、共用のホールでは、賑やかな声が聞かれる。利用者一人一人の個性を把握し、それぞれに適切な対応を常に検討し、ケアを提供していることが窺われる事業所である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和元年11月14日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和元年度

事業所名：グループホーム つどい

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初からの理念である、「安心して暮らして頂けるような信頼関係づくり」を開設6年目でもあるし、新たな理念をと考えもしましたが、開設当初からの利用者様が徐々に入れ替わりの中で、新たな信頼関係づくりに、従来からの理念の必要性を改めて感じております。	開設6年目になり、職員で理念の見直しを相談したところ、開設当初からの「安心して暮らして頂けるような信頼関係づくり」を継続することとした。この理念と行動目標「笑顔で思いやりのあるお声掛け」を共用スペースの梁に大書して掲示し、理念を意識したケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会からのお祭りの参加見物・文化祭見学は恒例行事。前回からの進歩としては、避難訓練に隣近所の方々も参加して下さい、アドバイスを頂けたことが地域の一員として認められた様なありがたい出来事でした。	町内会に加入している。総会に参加し、祭りには職員が準備を手伝っている。隣近所とは、盆暮れのおつきあいをしており、事業所の避難訓練には近所の方が参加し、避難場所で見守りをして頂いている。敬老会に、近所の小学生10人程が来訪し、ゲームをしたり小学校校歌を歌うと利用者も一緒に母校の校歌を口ずさみ、笑顔になっている。地域とは、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	8月には北上市西方にあるお寺のご住職様の説法会を当施設で催し、少しでも認知症へご理解を深めて頂けるよう隣近所の皆様、利用者様ご家族と少し間口を広げ交流を図りました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価を頂いた議題を報告し、推進委員の皆様と意見交換会を実施。アドバイスや新たな発見に気付くことができたことを、自施設に持ち帰り職員会議で話し合い、サービス向上に活かしております。	昨年の外部評価で提案された、消防署、駐在所、教育関係者の運営推進会議への参加については、家族のアンケートの際、「つどいだより」の町内回覧、警察や消防等関係機関への配布について否定的で、委員を増やすことは見合わせている。当会議は、身体拘束適正化検討委員会を兼ねている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	申請書類についてや、事故報告に値する案件かどうか、研修について、その都度疑問に思う事、わからないことを電話、メール、それでも納得できない時は直接足を運び協力関係を築いている。	地域包括支援センター職員が運営推進会議の委員として参加し、意見を頂いている。市長寿社会課には、要介護認定の代行申請や改定介護報酬等の照会、研修について対応して頂いている。市主催の集団指導や地域ケア会議に参加し、情報交換している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の職員会議に際に、身体拘束に話題は常に取り入れている。勉強会は研修に参加した職員からの意発表会で意見を交換し理解を深めている。夜間は近隣に飲食店が多数あり物騒なため施錠しているが、日中は施錠はしていない。	身体拘束適正化検討委員会は運営推進会議と一体で開催している。職員会議で、身体拘束について話題にしている。特にスピーチロックについては、十分意識して関わっているが、危険な場面できつい言葉や大きな声が出てしまうことがあることから、声のトーンを意識し、きつい言葉や優しくない言葉を使わない対応に努め、職員間でも注意し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部からの情報に職員が反応し、職員会議で話し合いを持ちたり、日々の業務の中では、声掛けの際の声色の強弱など互いにアドバイスをし合うなど虐待が見過ごされることがないように職員間でも声掛けの実行をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今秋に開催される高齢者権利擁護推進委員養成研修会に参加予定である。現時点では権利擁護について関心を持つ職員は少ないのが現状です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しましては、管理者が契約者様に対し、十分な説明を行い、文書を用いて契約の締結を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様ご家族には、気軽にご意見、要望を話して頂けるような立ち振る舞いを心がけるよう職員に話している。また、施設側に伝えにくいことがありましたら、第三者機関でも受け付けていることは契約当初にお伝えもしている。	介護認定調査時には、家族も立会い、利用者の変化や現状を認識して頂く機会としている。また、介護計画のサービス担当者会議を兼ねており、家族からは意見や要望も聴いている。居室担当者が、毎月、利用者の1か月の生活や健康状態等の、写真つき手書きのお知らせを家族に送付し、喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議だけにとどまらず、普段からコミュニケーションを取り意見や提案に耳を傾けるよう努力している。必ず皆に問題を開示し話し合いをもって決定するよう努めている。	月1回、職員会議、カンファレンスと続けて実施している。会議で、前回の外部評価で検討事項とされた、申し送りノートについて話し合い、職員用の業務連絡ノート、利用者の申し送りノートと別冊にし、利用者用は個別シートに記録することとし、利用しやすく改善されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者と定期的に連絡を取り、職員の要望に沿うことができるよう努めている。個々が向上心を持つことができるよう、資格取得、研修会へ参加できるように努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	公的機関からの堅守会や協力医療機関主催の勉強会には積極的に参加し、職員のモチベーション向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修を通じてのネットワーク作りが主となっている。情報ツールを使い交流は持っている。いまだ相互訪問は実現できていないのが現状です。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前にお話を伺い、ご本人様の意向や不安な気持ちを取り除くべく、納得いただけるよう傾聴し、サービスがスムーズに受け入れられるよう信頼関係を築く努力を惜しまない様心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にご家族様と話し合いの場を持ちお困りごと、不安に思う事には耳を傾け、支援に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様双方と話し合い。情報を共有し、今現在最優先すべき課題は何かを見極め、検討し、支援できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の意思決定が出来る様、選択肢を準備している。それには職員の柔軟な対応が不可欠になってきている。職員自らも相互理解に努めるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活のご様子はもちろんのこと、変化、気づきなどを記録し、面会に来られた時にお話しさせて頂いたり、利用者様ごとに担当職員をつけて、毎月、自筆でのお手紙、お写真で情報をお伝えし、共に支援参加していただけるような関係性を大切にしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会のご家族様の制限がない限り対応。古くからのご友人やご親類など来苑され、楽しい時間を過ごされているご様子。また、系列のデイサービスからの入居者様も多く、遊びに出かけたり交流が切れない様支援しております。	毎週来所される家族の方もおり、週に3名ぐらいの面会者がある。面会時は居室で過ごし、職員はお茶を出している。美容室を経営(着付け)していた利用者が、琴演奏ボランティアの方の着物を凝視する様子を観察することができた。その利用者には、お弟子さんが定期的にカットに来所されている。2か月ごとの訪問理容の方とも馴染みの関係が出来ている。系列のデイサービスの利用者と、定期的に交流している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	施設独自の体操やゲーム、お散歩、遠足などを通じ、コミュニケーションが良好でいられるよう支援に努めている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了しますと、なかなか足が遠のいてしまいがち。但し、中には次にまた父、母を宜しく願います。と言って下さるご家族様もいらっしゃいます。引き続き必要に応じ、ご相談に応じられるよう努めて参りたいと思います。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の個性を大切にすることを念頭に支援しております。お気持ちを直接お話しくださる方、お話されることが困難な方。衣食住の中で何気ない仕草や、お言葉を職員間で情報共有し検討し支援に活かしております。	「買い物に行きたい」「どこ?」「呉服屋」と言われ、デパートの呉服売り場に出掛けたこともある。眉を描いてあげると喜ぶことを発見する等、職歴や生活歴を把握し、笑顔になれるよう工夫し対応している。言葉で表現できない利用者とは、口の動きや仕草で把握し、思いの実現に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様から在宅時での様子、利用者様から伺った昔話を職員間で情報を共有。ケアプランに反映しサービス提供に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	変化を見逃さず、気づいたこと、見聞きしたことは必ず申し送りノートに記入、ケア記録に入力し、いつでも確認できる体制づくりをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族がお見えになられたときに、利用者様の意向や、近況をお伝えし、意見を頂いている。お聞きしたお話をカンファレンス兼職員会議で話し合い、介護計画に反映させている。	入居時に、管理者と計画作成担当者が面接し、介護計画を作成し、その後、事業所独自のモニタリング表により、居室担当者がチェックし、職員の話し合いを経て、3ヵ月毎に計画を見直している。介護認定調査時には家族も立会い、併せてサービス担当者会議を実施し、現状を踏まえた介護計画を作成している。	介護認定調査時の家族立会いや、併せて担当者会議を実施する等の工夫が凝らされており、職員全員での取り組みを今後も期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個々の記録やモニタリング表を記録しチェックし共有している。カンファレンス兼職員会議で話し合い、介護計画を見直し、次回に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様の何気ないお言葉や仕草を見逃さず要望にお応えすることはもちろんの事、ご家族の要望にも耳を傾けできるだけご希望に沿えるよう努めております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お祭りの参加のお誘い、地区の文化祭見学、近隣住民参加しての避難訓練等とおして、市域の皆様と同じ時間を共有できる機会が少しずつ増えている。昨年より確実に増えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	9名中6名は訪問診療を受けており、残り3名はご家族協力のもと、在宅時のかかりつけ医を継続して受診頂いている。ご家族に報告するとともに、どちらも受診時には、主治医様宛に、利用者様の健康状態を文書でやり取りしている。	入居者6名が、かかりつけ医による訪問診療で対応している。入居以前のかかりつけ医継続3名で、家族が受診同行している。受診時には、事業所での健康情報を提供し、適切な医療が受けられるよう支援している。訪問看護ステーションの看護師が、日常の健康管理や緊急時の対応支援を担っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護、訪問日前に一週間のご様子を記入した文書をFAXし、来苑前に情報をお伝えし、状態観察して頂いている。また、24時間対応のため、身体状況の異変に看護、受診が出来る様連携をとっております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時、ご家族様と職員が同行し、病院関係者に日頃の状態を伝えている。退院時も、事前にご家族様と共に退院時カンファレンスに参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	サービス導入前にお話を伺い、ご本人様の意向や不安な気持ちを取り除くべく、納得いただけるよう傾聴し、サービスがスムーズに受け入れられるよう信頼関係を築く努力を惜しまない様心がけている。また、文書でも確認して頂いている。	入居時に利用者や家族の意向を確認し、看取りの状態が近くなった際には、改めて家族に意向を確認している。今年、3月と7月に看取りを行っている。看取り後には、かかりつけ医や訪問看護ステーションの看護師も参加したカンファレンスを実施し、看取り対応した職員の精神的負担を軽減している。今後も重度化や終末期の対応について、研修を続けることとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	介護で出来る範囲の応急処置はマニュアルを作成し、急変時の対応が出来る様にしている。また、施設での範囲を超えた状態変化が認められる利用者様にはどのように対応すべきか看護師に伺い、口頭、記録やノートを用いて職員間で情報共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練時は隣近所に、訓練日事前に文書でお知らせし、協力参加をお願いしている。	消防署立会いの避難訓練を年2回実施している。訓練には、近所の方2名に参加協力して頂いた。災害時の市指定の避難場所は、車椅子や寒さの関係で利用が難しく、事業所向かいの医院(事業主の配偶者経営)に避難することとしている。	ここ数年、夜間や夜間想定訓練を行っていないこと、1ユニットの事業所で夜勤者が1人であること、更に最近の自然災害の状況を踏まえ、小規模でも夜間の避難訓練を積み重ねていくことについて検討されたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の性格や個性を把握することに努め、個人を尊重とした対応、自尊心を気付付けることのないようなお声がけや笑顔で接するよう心掛けております。	理念の「利用者の尊厳ある生活を守る」を意識し、個々の人格の尊重やプライバシーを妨げる行為、言葉について、職員間で共有しケアを実践している。家族アンケートで、事業所の「つどいだより」への個人の写真掲載に同意していない方もおり、プライバシーの確保については十分配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	季節の変わり目や利用者様個人、個人の生活リズムを把握し、自己決定を促したり、迷いが見られる時は、職員とともに考え最終判断ができるような支援を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の生活習慣は三者三様。施設の生活リズムのペースはあるが、一人ひとりのペースを大事に希望に沿うよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	週に3回の入浴での清潔保持利用者様の好みの装いを把握、洋服選びには利用者様のにも参加していただくよう身だしなみの支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は専門の職員が行っている。食器拭きや食器の片づけは担当の利用者様にお任せしている。職員は見守りのみ、責任をもって行って下さっております。	献立は、病院給食の経験豊かな事業主が作成している。調理は、調理専門の職員が行なっている。利用者は、調理に係わることが難しくなり、食器拭きや器の片づけを役割としている。個々の機能に合わせ、ミキサー食や刻み食を提供しており、2名は経腸栄養剤で栄養を補っている。誕生日には、ケーキを全員で頂いている。利用者は敬老会の特別メニューを楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主食はおかゆ又はご飯。体重や体調により摂取量も利用者様に合わせて提供。副食も刻み、ペースト状それぞれ対応。水分に関しては、とりみ付き、ゼリー、寒天等健康状態に合わせて提供している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	お声がけさせていただき利用者様自ら行っている。自ら施行困難な利用者様には職員が介助しお手伝いしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ・リハパンを使用する時間帯を限定したり、オムツ使用でも排便はトイレで出来る様支援排泄パターンを職員全員把握している。	尿意を感じてトイレに行く利用者は7名で、布パンツ1名、リハビリパンツ、尿取りパット併用6名、おむつは2名で、ポータブルは1名が使用している。おむつの方は排便時には陰部洗浄している。排泄用品の使用について、使用時間を限定する等、機能の維持や自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操、水分摂取量の把握、毎朝の乳製品、野菜を取り入れた食事バランスで予防に繋がっている。ただし、これを以っても便秘がちな利用者様には主治医と相談し整腸剤、下剤を処方して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週3回。体調の変化や安全面を考慮し、午前中に施行。浴室、脱衣場で男女居合わせることがないように、個々に合わせて支援している。	浴室は、日曜日以外毎日準備している。入浴は午後で足浴から始め、週3回入浴している。機械浴槽と2人で入れる大き目の浴槽を備えている。今年は柚子湯を予定している。異性介助に配慮しているが、嫌う利用者はいない。着替えの準備は、ほぼ職員が手伝っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に活動時間を増やし、夜は十分にお体を休んでいただけるような環境づくりを一人、一人に合わせて行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	申し送りノートを用いて利用者様の服薬変更、副作用、用法などを記入し、情報共有。処方箋を個人ファイルにとじ込みいつでも閲覧可能にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で利用者様個人の楽しみにしていること、嗜好品を把握するよう努めている。誕生日、季節のお祝い状況に応じ対応している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の希望、に沿った対応ができるよう努めている。施設側で対応できない時はご家族様にお話しし、協力いただいている。	天気のよい日は近くの神社を散歩している。お花見ドライブでは、お茶して帰ってくるのが楽しみである。紅葉ドライブは2回全員で出かけている。初詣は事業所隣の諏訪神社に毎年参拝している。散歩に誘っても、「風に当たりたくない」「外に出たくない」とかで、外出や外食の機会が減っている。買い物に行きたいとの声が上がれば、絶好の外出の機会と捉えて対応している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いをご家族様よりお預かりし、施設(事務所)で管理している。自身でお金を持っていたいという利用者様もおります。外出時はお金を所持していただき、お買い物の際は職員が支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設から電話をかけることはありません。手紙でやり取りはございます。お返事は自ら出される方もおりますし、職員がお手伝いすることもございます。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を味わっていただく為、地域の行事に参加したり、ドライブに出かけ四季の変化を感じ取って頂いたり工夫している。建物の中央部に台所を設置して頂いているため、調理風景をいつも見て頂いている。そのようなことが、家庭的な雰囲気づくりに一役買っているようである。	共用のホールには、エアコン、加湿器4台、丸いテーブル(食卓)、椅子、作業台、ソファ、テレビ、カラオケセットが設置されている。中央部に台所があり、利用者は、思い思いの居場所で調理風景を見ている。また、大き目のコーヒーマーカーが用意され、コーヒータムを楽しんでいる。壁面には、絵画や利用者も参加して制作した相撲力士のちぎり絵が掲示してある。ホールでは、利用者の希望でラジオ体操2番まで元気良く笑顔で体操している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座る位置は自然に決まっている。ソファの数はスペースの関係で十分でないかもしれないが、譲り合いもあり、トラブルは少ない。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、ご自宅で愛用されていたものをお持ちくださるようお話している。できるだけ馴染みのあるものを使用することにより、ご自宅を変わらない環境づくりに努めている。	居室には、洗面台、手動式ベッド、備え付けの洋服ダンス、折りたたみのテーブル等が設置され、トイレ付きの居室も4室ある。布団はリースで、シーツ、タオルケット類は自前となっている。位牌やテレビ、家族の写真などが置かれ自室の雰囲気となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している			